

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第196号 会 報 2008年7月7日

目	次
第123回総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	国際学術交流事業補助金受領の報告 佐藤由佳・12
会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	アウトリーチ部会報告・・・・・・・・・・・・・・ 13
名誉会員業績および推挙理由・・・・・・・・・・ 3	波動分科会活動報告・・・・・・・・・・・・・・ 14
田中館賞審査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4	関連研究集会のご案内・・・・・・・・・・・・・・ 14
田中館賞を受賞して 渡部重十・・・・・・・・・・ 5	関連公募のご案内・・・・・・・・・・・・・・ 15
学会賞決定のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・ 6	学術賞・研究助成のご案内・・・・・・・・・・・・ 18
第24期第6回運営委員会報告・・・・・・・・・・ 6	学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール・19
第124回総会・講演会関連情報・・・・・・・・・・ 9	SGEPSSカレンダー・・・・・・・・・・・・・・ 19
SGEPSS60周年記念学会史寄稿のお願い・・・・ 11	賛助会員リスト・・・・・・・・・・・・・・ 20
国際学術交流事業補助金受領の報告 中田裕之・11	

第123回総会報告

第123回総会は、2008年5月25～30日に幕張メッセ国際会議場において行われた日本地球惑星科学連合2008年大会の5日目である、5月29日12時30分から13時30分まで302号室において開催された。出席者119名、委任状提出141名の計260名（定足数225名）であった。今回初めて導入した電子委任状では98件の有効な提出があった。

まず、中村正人連合総務委員会副委員長による開会の辞の後、議長として木戸ゆかり運営委員が議長に指名された。歌田久司会長による挨拶（*本号に別途記事有り、以下同様）ののち、田中館賞授与式に移り、第156号として渡部重十会員に授与され、会長より審査報告（*）がなされた。

次いで、昨秋の学会における学生発表賞（オーロラメダル）受賞者（西岡文維・尾崎光紀・村上豪・横山雄生・米田瑞生・鈴木一成・寺本万里子・成行泰裕・西村幸敏の9名（敬称略））が表彰された。

諸報告に移り、石井 守運営委員より前回総会以降に開催された第24期第5回・第6回運営委員会の報告がなされた（*）。次に平成19年度決算についての速報と会費納入について山本 衛運営委員から報告があった。

議事として、名誉会員の推挙を行った。松浦延夫会員、鶴田浩一郎会員を名誉会員に推挙する事について、歌田久司会長から推薦理由（*）が述べられた後、満場の拍手を持って議決された。

最後に、今秋の総会・講演会（*）をお世話いただく東北大学の岡野章一会員より、準備状況について紹介があった。

第123回総会議事次第

1. 開会の辞
2. 議長指名
3. 会長挨拶
4. 田中館賞授与
5. 田中館賞審査報告
6. 学生発表賞表彰
7. 諸報告
 - (1) 第24期第5回・第6回運営委員会報告
 - (2) 平成19年度決算速報・会費納入のお願い
8. 議事
名誉会員推挙
9. 秋期学会開催地
10. 閉会の辞

(石井 守)

会長挨拶

第24期会長 歌田久司

冒頭に学会としてうれしいニュースをお知らせします。すでに会報・メール等でご案内の通り、昨年秋の叙勲において当学会の元会長である松本紘会員が紫綬褒章を受章されました。次に、桂華邦裕会員が、第24回井上研究奨励賞を受賞されました。また、長井嗣信会員が2008年のAGUフェローに選ばれました。以上の方々にご心よりお祝い申し上げます。

さて、地球惑星科学連合も発足以来3年が経過し、春の「連合大会」という呼称も板についてきて「合同大会」と呼んでしまうことも少なくなってきたように感じます。その連合が、今秋のいわゆる新公益法人法の施行に合わせて、法人格を取得する方向で準備が進められております。当学会としては、運営委員会が中心となってこの動きに対応し、学会としての意見表明等を行なってまいりました。これらの対応の中身については、先般より学会ホームページ等を通じてお知らせしてきた通りです。いろいろと懸念材料はあるものの、連合がしっかりとした運営体制と財政基盤を整え、法人格を取得することにより社会的なステータスも得る事は、地球惑星科学コミュニティー全体にとって好ましいことであり、ぜひ推進すべきであるというのがSGEPSSの基本的な立ち位置です。

本来制度設計は、広範な意見を集約しながら時間をかけて行なわれるべきですが、法人化申請を法律の施行にあわせて行なうという方針もあって、具体的な準備が急速に行なわれようとしています。SGEPSS総会の前日には、連合の評議会（現体制での最高議決機関）が行なわれ、連合の将来構想委員会からの新体制に関する最終答申が示されました。今後は、連合に法人化準備会が組織され、この答申に基づいて具体的な制度設計が行なわれることとなります。運営委員会からは、石井総務に将来構想委員会に引き続いて準備会にも加わっていただく予定です。ところで、この答申によれば現在の連合が学協会を会員とする形態であるのに対し、法人化後は会費を払う個人会員と会費を払わない学協会（団体会員）とが共存する形態が構想されております。この形態で最終決定がなされたわけではありませんが、仮にこの運営形態が実現する事になれば、これまで上下の関係であった連合と加盟学協会との関係に、横の関係という要素が新たに加わる事となります。従って、



これから地球惑星科学のコミュニティーに加わる人たちに対して、連合の個人会員になるのに加えてSGEPSS会員になることに十分なメリットがあることを示して行く事が、これまでも増して必要になります。いずれにせよ、自らの学会の活性化はこのような外部条件に関わらず常に考えて行くべきであるのは当然のことで、運営委員会のここ数年間の学会活性化への取り組みをさらに継続したいと考えております。特に、春の連合大会と秋の固有学会の違いを際立たせ、秋学会をさらに魅力的なものにすることが、大切であると考えます。会員各位のご協力も改めてお願いする次第です。

次に当学会をとりまく情勢について2つほどコメントいたします。

昨年夏に、海洋基本法が施行されたのに続き、つい先日には宇宙基本法が国会で成立しました。いずれも当学会の活動に密接に関連するものです。地震の分野では、平成7年の阪神淡路大震災を契機に新たな法律が施行され、それに基づく国の調査研究計画が策定され実施されるようになり、研究者サイドにとってかなりの変革がありました。宇宙や海洋の分野にも、同様の変革がもたらされることも予想されますが、学会活動の中心である科学研究が法律による規定に過度に束縛されることなく調和をもって発展して行くよう、期待したいと思えます。また、それぞれの分野において主導的立場にある会員のご尽力をお願いする次第です。学会としても、連合あるいは学術会議等との連携も視野に入れつつ適切な対応を心がけたいと考えております。

大学においては、21世紀COEプログラムの後継プログラムとして、グローバルCOEがスタートし、現在当学会にもっとも関連ある分野の審査が行なわれつつあります。その状況はかなり厳しいものとなっておりますが、関係各位のご努力により当学会に関係するプログラムができるだけ多く採択される事を期待しております。

昨年のご挨拶の折に述べましたように、本学会の

設立60周年を記念する事業として、運営委員会を中心に学会誌の編纂を行なって参りました。幸い、多くの会員からのご寄稿をいただき、できれば今年度中に印刷・出版できるよう、作業を進めているところです。刊行の暁には、戦後まもない時期における当学会の設立から60年後の現在に至るまでの発展に関わった先輩諸氏のご苦勞を偲び、多くの方々の学会への貢献を振り返る上で貴重な資料になると思います。また、装丁も内容にふさわしいものにすべきだのご意見にも、できるだけお応えしたいと考えております。ただし、学会の財政に過度な負担のかからない範囲でおさめるためには、会員各位からも何らかのご協力をいただく必要もあるかと思えます。最後に、編纂にあたってご尽力をいただいた会員および貴重な時間をさいて原稿をご執筆いただいた会員の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げ、私の挨拶といたします。

名誉会員業績および推挙理由

松浦延夫会員

松浦延夫会員は、長年電離圏物理の研究に従事され、多大な貢献をされてきました。同会員は、郵政省電波研究所在籍時代より人工衛星を用いた観測研究に主眼を置き、諸外国の電離層観測衛星データの解析から上側電離圏の電子密度構造の物理的性質を明らかにした研究により、昭和41年5月に田中館賞を受賞されました。その後、我が国初の実用衛星である電離層観測衛星を用いた観測研究においては、プロジェクトの指導者として衛星開発から解析に至るまで関与され、電離層臨界周波数の世界地図を初めて作成するなどの功績を挙げられました。これにより、昭和54年4月に郵政大臣表彰を受けられました。

名古屋大学に移られた後も、同会員は、人工衛星電波を利用した観測研究を推進される一方で、ノルウェーとの間で欧州非干渉散乱(EISCAT)レーダーを用いた国際共同研究を企画・推進されました。日本がEISCATに正式加盟する基礎を築かれ、国内の研究者にEISCAT利用の道を開かれた功績は大変大きいものがあります。このEISCATデータを用いた熱圏・電離圏相互作用の研究及び関係研究者に対する指導をされるとともに、熱圏・電離圏・磁気圏の間のエネルギーの流れを解明する研究の端緒を開かれました。

学会運営への貢献としては、松浦会員は運営委員

を第6期から8期の全3期、評議員を第14期、17期、18期の全3期務められるなど、大きな貢献をされました。

以上のように、松浦会員のご功績は誠に顕著であり、地球電磁気・地球惑星圏学会における名誉会員としてふさわしく、ここに推薦いたします。

鶴田浩一郎会員

鶴田会員は長年にわたり磁気圏の研究に貢献されました。1977年に「VLF波到来方向探知装置の開発」で田中館賞を受賞された後、人工衛星による磁気圏の直接観測に尽力されました。磁気圏観測衛星「あけぼの」、「ジオテイル」、日本初の火星探査機「のぞみ」、月探査ミッション「かぐや」において指導的役割を歴任され、磁気圏科学のみならず、日本の惑星科学を先頭に立って牽引されました。また、鶴田会員が考案した精密電磁場観測装置は、世界トップの測定技術として日本から世界に技術移転され、ジオテイル、クラスター、さらに米国MMS衛星にもその技術は引き継がれています。

鶴田会員は2003年に宇宙科学研究所の最後の所長として着任され宇宙三機関統合にご尽力なさいました。2003年から2年間は統合後初の宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部長を勤められ、この間、鶴田会員の卓抜な見識により統合前後の難局を切り抜け、ここに結集された宇宙科学研究をも守り抜く結果となったのであります。

本部長を退かれた後の鶴田会員は、カナダ等においてオーロラアークの厚みの研究を進めながら、日本学術会議の連携会員としてご活躍されています。また宇宙開発委員会における宇宙科学および月探査ワーキンググループの座長を務められ、更なる宇宙科学の発展に努めておられます。

学会運営への貢献としては、鶴田会員は運営委員を第11期から14期の全4期、評議員を第18期から21期の全4期務められるなど、大きな貢献をされました。

以上のように、鶴田会員のご功績は誠に顕著であり、地球電磁気・地球惑星圏学会における名誉会員としてふさわしく、ここに推薦いたします。

(歌田久司)

田中館賞審査報告

第156号田中館賞

渡部重十 会員

論文名「中低緯度電離圏・熱圏の力学とエネルギー収支に関する研究」

渡部重十会員は、地球惑星大気・プラズマ物理学、地球惑星熱圏電離圏物理学の研究に関わり、データ解析、計算機シミュレーションおよび観測のあらゆる手法を駆使して、数々の業績をあげ地球電磁気学および地球惑星圏科学に多大な貢献を果たした。また、以下のような日本の衛星を用いた電離圏の研究において、多くの発見をもたらした多くの業績をあげた。

1. 1981年に打ち上げられた「ひのと」で得られた、電子密度および温度データを用いた赤道域電離圏プラズマの力学と不安定および熱構造の研究。
2. 1985年に打ち上げられた「おおぞら」で得られた極域トラフの熱構造と電子温度の非等方性の研究。
3. 1989年に打ち上げられた「あけぼの」によるポーラーウィンドおよびイオン加熱の研究。

渡部会員は、特に、中緯度電離圏・熱圏の力学とエネルギー収支に関しては、大気およびプラズマの観測データを解析し、その結果をシミュレーションにより理論的に検証し、物理的な理解を深めた。最近の衛星ミッション（ROCSAT, SROSS, CHAMP等）による中低緯度熱圏電離圏観測は、中低緯度の電離圏プラズマと熱圏大気とが強く結合していることを示しており、上述の日本の衛星による渡部会員の研究結果を再確認するものである。

中低緯度熱圏電離圏では、太陽からのEUV放射により生成した光電子が磁力線に沿って運動し、生成領域とは異なる領域の熱圏電離圏大気・プラズマを加熱するという、非局所加熱が重要な役割を果たす。渡部会員は、この光電子の運動を考慮した非局所加熱を取り入れた3次元中低緯度電離圏モデルを独自に開発し、「ひのと」で得られた電子密度および温度の季節や経度による振る舞いの違いを物理的に理解するのに貢献した。特に、電離圏上部の熱構造が、電離圏の運動と光電子の運動に強く支配されていることを明らかにしたことは、重要な結果である。さらに渡部会員は3次元全球熱圏電離圏モデルを開発し、地磁気擾乱に対する低緯度電離圏への応答を計算機上で再現し、磁気赤道域ではイオンドラッグによって電離圏プラズマ

と熱圏大気が強く相互作用し、熱圏大気の運動が電離圏大気の運動によりコントロールされていることを明らかにした。また、熱圏大気密度異常帯と熱圏大気の超回転が、この相互作用の結果として生成されることも示した。渡部会員が明らかにした熱圏・電離圏結合が想像を超えるほど強いものであることは、最近では、米国や欧州をはじめ台湾、韓国、インドなどの衛星観測や地上観測によっても明らかにされつつある。

渡部会員は、1982年のDE-2衛星により断片的に見出された赤道大気密度風異常帯および大気温度・熱圏風異常を、最近のCHAMP衛星によって得られたデータを用いて系統的に解析し、熱圏電離圏モデルとの比較検討を通して、それらの存在を確固たるものにした。すなわち、熱圏大気は電離圏プラズマとの強い相互作用により、赤道域熱圏の中性風は磁気赤道に沿って流れ、かつ超回転していることが明瞭に示された。

渡部会員は、多くの学術論文や国際会議の招待講演等で日本の衛星による研究成果を発表し、日本の衛星を用いた熱圏電離圏の研究が高水準にあることを世界に認めさせることに貢献した。また、日本の電離圏に関する研究がこれまで世界の最先端にあったことは、渡部会員のデータ解析およびコンピュータシミュレーションに関する卓越した技術および見識に依るところが大きい。さらに渡部会員は、データ解析・理論・シミュレーションにとどまらず、光学望遠鏡や惑星探査機による惑星大気の観測や、サウンディングロケットによる大気力学に関する実験等も手がけ、その研究領域をさらに大きく広げて、日本の熱圏電離圏研究・惑星大気研究分野において指導的役割を果たしている。

渡部会員は、学会活動においても、SGEPSS運営委員や大林奨励賞推薦委員および推薦委員長など重要な役割を果たしてきた。また、日本学術会議では、地球電磁気研究連絡委員会委員、太陽地球間物理学専門委員会委員および幹事、国際学術協力事業研究連絡委員会委員、第4回国際極年国内委員会委員をつとめ、広く関連分野の発展にも大きな役割を果たしている。IRI Working groupのメンバーを務めるなど、国際的にも活躍している。

これらの地球電磁気・地球惑星圏科学における優れた研究業績と活動を評価し、評議員会の審査と議を経て、渡部重十会員に田中館賞を授与することとした。

(歌田久司)

田中館賞を受賞して

渡部重十

このたび「中低緯度電離圏・熱圏の力学とエネルギー収支に関する研究」で田中館賞を受賞させていただき、ありがとうございます。ご指導をいただいた諸先生方、貴重なご批判をいただいた研究者諸兄、ともに研究をすすめてくれた大学院生・研究室の皆さんに感謝いたします。学会設立時からの歴史ある電離圏・熱圏の研究に関わることができ大きな幸せを感じています。私が大学院生のとき、日本の宇宙開発・宇宙空間観測が本格的となり、大家 寛先生のご指導の下に研究を進めることができました。この時期、プラズマバブルや電子密度不規則構造の研究が世界の潮流であり、1日1日が緊張とともに充実した研究生活をおくることができました。私が関わらせていただいた「ひのとり衛星」で測定した電離圏プラズマのデータは、精度の高い貴重なデータとして今でも世界中で使われています。「ひのとり衛星」は、新しいタイプの電子密度変動を発見しました。この生成過程を解明するためにモデリングの開発に着手しました。コンピュータの性能が急速に高くなり、コンピュータを用いたモデリングが新たな研究手法の一つとして確立されようとしている時期でした。ここでも、私は幸運であったように思います。電離圏研究で、もうひとつの大きな問題は、磁気赤道域に発生するプラズマバブルの熱構造でした。小山孝一郎先生のご指導の下に衛星観測とモデリングの両方向から研究を進めました。中低緯度熱圏電離圏では、太陽からのEUV放射により生成した光電子が磁力線に沿って運動し、生成領域とは異なる領域の大気・プラズマを加熱するという非局所加熱が重要です。光電子の運動を考慮し非局所加熱を取り入れた3次元全球熱圏電離圏モデルを開発することにより、プラズマバブルだけでなく電離圏上部全体の熱構造は熱圏電離圏大気・プラズマの運動と光電子の運動に強く支配されていることや電子密度、電子温度の時間変化、季節や経度による振る舞いの違いを物理的に理解することができました。

最近の衛星による中低緯度熱圏電離圏観測は、日本の研究成果を再確認するものであり、中低緯度の電離圏プラズマと熱圏大気が強く結合していることを示しています。私たちが開発した3次元全球熱圏電離圏モデルから、イオンドラッグにより電離圏プラズマと熱圏大気が磁気赤道領域で強く相互作用し、熱圏大気の運動が電離圏プラズマの運動によってコントロールされていることが解



りました。この相互作用の結果として熱圏に存在する赤道大気密度異常帯と熱圏大気の超回転が生成されることも理解できました。熱圏・電離圏結合は、私たちの想像を超える強いものであることを、日本、米国、欧州だけでなく台湾、韓国、インドの衛星観測や地上観測による研究から明らかにされつつあります。北海道大学の大学院生や研究員として滞在しているHuixin Liuさんによる赤道大気密度異常帯、大気温度・熱圏風異常のCHAMP衛星観測と熱圏電離圏モデルとの比較・検討から、熱圏電離圏結合過程の存在を確実にしました。熱圏大気と電離圏プラズマの強い相互作用により、赤道域熱圏の中性風は磁気赤道に沿って流れ、かつ超回転していることを示しています。

私が参加させていただいた日本の衛星による電離圏研究から、1981年に打ち上げられた「ひのとり衛星」だけでなく、1985年に打ち上げられた「おおぞら衛星」による極域トラフの熱構造と電子温度の非等方性、1989年に打ち上げられた「あけぼの衛星」によるポーラーウィンド及びイオン加熱等の多くの発見を得ることができました。これらの熱圏電離圏の研究とその成果を太陽系惑星や太陽系外惑星にまで拡張し、モデリング、衛星、探査機だけでなくロケットや地上観測も含めた観測手法に取組み、大学院生と研究の面白さを確かめながら、今後も引き続き教育・研究を進めて行きたいと思います。皆様、今回は本当にありがとうございました。

学会賞決定のお知らせ

当学会の学会賞の受賞者は、評議員会の審議で決定しますが、評議員会開催直後の会報に掲載される議事概要には審議が行なわれたことのみを報告することがこれまでの慣例となっておりました。しかし、授賞式前に受賞者の氏名の公表を望むという複数の会員からのご要望を受け、運営委員会および評議員会で検討した結果、今回より会報で受賞者の公表を行なう事にしました。

5月27日に評議員会が開催され、長谷川・永田賞と大林奨励賞の受賞者が以下のように決定しました。授賞式は、秋季大会の総会において行なわれます。

記

長谷川・永田賞
平澤威男 会員
松本 紘 会員

大林奨励賞

馬場聖至 会員
論文名：海底電磁気観測にもとづく上部マントル電気伝導度構造の解明
松清修一 会員
論文名：地球近傍衝撃波における電子ダイナミクスに関する理論シミュレーション研究
宮下幸長 会員
論文名：衛星観測より求められたサブストーム時の磁気圏尾部変化と磁気リコネクションに関する研究
(歌田久司)

第24期第6回運営委員会報告

日時：2008年5月26日(月) 17:00~21:10

会場：幕張メッセ国際会議場 第203室

出席者(敬称略)：歌田久司、津田敏隆、阿部琢美、石井 守、石川尚人、臼井英之、小川康雄、河野英昭、北 和之、木戸ゆかり、齊藤昭則、高橋幸弘、長妻 努、野澤悟徳、山本衛、吉川一朗 清水久芳(17名/定足数11名)
欠席者(1名)：田口 真

1. 前回(第24期第5回)運営委員会議事録の承認(石井)
・承認された。

2. 協賛共催関連(小川・清水)
・以下の3件が承認された。

第26回レーザーシンポジウム(協賛)

主催：レーザーダ研究会
日程：2008年9月11日 - 12日
場所：原鶴温泉(福岡県)

日本流体力学会年会2008(協賛)

主催：社団法人日本流体力学会
日程：2008年9月4日 - 7日
場所：神戸大学六甲台キャンパス

惑星科学フロンティアセミナー2008(後援)

主催：惑星科学フロンティアセミナー実行委員会(日本惑星科学会)
日程：2008年7月22日 - 25日
場所：ニセコ(北海道、予定)

3. 入退会審査(小川)

・入会：11名の入会が承認された。
正会員(一般)4名：秋岡真樹(所属：情報通信研究機構、紹介者：小原隆博・佐川永一)、松野哲郎(極地研究所、島 伸和・野木義史)、芦原佑樹(奈良工専、岡田敏美・三宅壮聡・石坂圭吾)、天野孝伸(名古屋大学、星野正弘・寺澤敏夫)
正会員(学生)7名：吉岡和夫(東京大学、岩上直幹・吉川一朗)、寺本万里子(京都大学、齊藤昭則・家森俊彦)、大賀正博(同志社大学、林田 明・福間浩司)、臼井嘉哉(東京大学、上嶋 誠・小河 勉)、村上 豪(東京大学、吉川一朗・岩上直幹)、山下幸三(東北大学、高橋幸弘・佐藤光輝)、小路真史(京都大学、大村善治・臼井英之)

・退会：8名の退会を承認した。

退会8名：山口 類、西田潤一、小川 敢、鮎川勝、岡崎良孝、井上聖子、相京和弘、武貞良人

・シニア：1名のシニア会員申請を承認した
シニア会員1名：中村義勝

4. 会計関連(山本・阿部)

4.1 H19年度決算報告

・平成19年度の会計決算が報告された。
・収入：一般会員の会費納入率は予測通りであった。学生会員と海外会員の納入率が低く、支払い方法等に改善が必要。収入は予算額を11万円ほど下回った。
・支出：管理費が予算額を下回り、効率的運用

がなされた。会報発送費が予定額の2倍になっているが、これは191号会報に会員名簿を同封したため。通信費、印刷費、旅費には余裕がある。大会開催費については、秋学会のL O Cの名古屋大学の努力により、学会の負担が小額ですんだ。支出額は予算より131万円下回った。

- ・総括：支出を抑えることができたため、次期繰越金が約120万円増となった。収支としては問題ないが、広報教育活動費など、さらなる投資が望ましい費目への支出を増やすなどの工夫が必要。

4.2 会計監査準備報告

- ・7月1日に監査が予定されていることが報告された。

4.3 除籍対象者

- ・3年以上会費未納の除籍対象者のリストが提示された。また、4年以上会費未納者については2006年に除籍勧告を、3年未納者には2007年3月に除籍勧告を行った。これらの未納者には会費納入を促す。

5. 国際学术交流事業関連（石井）

- ・2件の申請について審議を行い、新 浩一会員の申請を採択した。援助額20万円。

6. 秋学会関連

6.1 第124回講演会準備状況（高橋）

- ・仙台で開催される予定の秋学会の準備状況が紹介された。L O Cのホームページ（立ち上げ予定）より情報を会員に周知する。
- ・学会期間中は保育室を確保する予定。詳細については今後調整を行う。
- ・アウトリーチイベントの科研申請が採択された。助成額90万円。

6.2 第124回講演会までのスケジュール（石川）

- ・秋学会までのスケジュールが説明された。重要な日程は以下のとおり。
6月6日まで セッション情報の最終締切
6月20日 投稿受付開始
7月22日 投稿締切
10月9日 - 12日 秋学会
- ・予稿投稿には、日本地球惑星科学連合の個人データベースを用いる。
- ・レギュラーセッションのコンピーナの調整状況が説明された。

6.3 特別セッション

- ・3件の申請があり、議論の結果、2件が採択された。
- 「南極昭和基地大型大気レーダーによる超高層大気研究の新展開」
（コンピーナ：佐藤 薫、齋藤昭則、佐藤 亨、堤 雅基、山内 恭、富川喜弘）
- 「地震学と地球電磁気学の境界領域研究」
（コンピーナ：歌田久司、高橋幸弘、鴨川 仁、西田 究、深尾良夫）

6.4 その他

- ・JCOMから、予稿集CD-ROM作製等にかかる費用の値上げについての要望が出されたことが報告された。今年度については値上げを見送ることになったが、来年度以降は、現状のサービスを維持するのであれば、20~30万円程度値上がりする。今後、サービスの維持（予算の増加）か予算の維持（サービスの低下）のどちらを選択するかを含め、方針を決定し、対応策を検討する。引き続き、運営委員会で議論する。

7. 学会連合関連

7.1 プログラム委員長選出について（北）

- ・2010年連合大会プログラム委員長の立候補、推薦を募っていることが報告された。

7.2 その他

- ・地学オリンピックの協賛費（10万円）は、今年度予算から支払う。

8. アウトリーチ関連（長妻）

- ・アウトリーチ部会の会合を5月26日に行い、秋学会時のアウトリーチイベント、アウトリーチWebについての議論をおこなった。アウトリーチイベントについては、コアメンバーが選出された。また、webは、秋学会までに作成し、アウトリーチイベント時に会場に参加者に使用していただき、意見を募る。
- ・webのキーワードの選出についての意見を募る。
- ・部会メンバーが固定化しつつあり、若い新メンバーが欲しいという意見が出された。

9. EPS関連（齋藤・田口）

- ・科研費が採択されたことが報告された。助成額は1160万円。
- ・入札が行なわれ、テラパブが落札した。

- ・科研費助成額が減少していることが報告された。
(昨年度より300万円減。)今後の対応を検討する必要がある。
10. 男女共同参画関連(木戸)
- ・2006年に実施された、大規模PDアンケートの調査報告書が印刷・製本されたことが報告された。また、電子版が4月より公開されていることが紹介された。
 - ・アンケート調査結果を連絡会の希望学会、WGメンバー、運営委員、評議委員、大学・研究機関長、関係省庁に配布する。
 - ・今後、提言をまとめるか否かについて、WG内で議論していることが報告された。また、提言は積極的にすべきであるという意見があった。
 - ・2回目のアンケート(学協会がとりまとめ)の集計等の進捗状況が報告された。5月25日に最終版が定められ、内容については次回運営委員会で報告予定。
11. 学校教育WG報告(北・吉川)
- ・高校関係者用の「太陽地球系科学」の進捗状況と予定について報告された。
 - 現在は2回目の査読中。全章の査読終了後、高校関係者に読んでいただき、意見を募る。
 - 本年中に最終版を定める。
 - ・当初の想定より大規模になり、京大出版会から出版される予定であることから、冊子が高額になるのではないかとという危惧がある。ある程度の数を買って高校に送付する等、本の配布法について、今後議論を行う。
12. 合同プラズマセッション報告(吉川)
- ・世話人を杉山徹会員に依頼し、快諾していただいた。
 - ・次回は物理学会の主催で2009年3月に開催する予定。(今後、物理学会の承認を得る予定。)
 - ・現在の3学会の他の学会も含める予定がある。
 - ・2010年のプラズマセッションはSGEPSSが主催予定。
13. Web関連報告
- 13.1 学会Webの改訂について(臼井)
- ・改訂版の学会HP(仮)が公開されたことが報告された。現在、不具合等確認中。
- 13.2 SGEPSS Web カレンダーの集会情報の充実について(河野)
- ・SGEPSS Web カレンダー
http://www.sgepss.org/calen_test/calen.cgi
- を、これまでボランティアで sgepssbb に流されてきた集会リストと同程度の情報量にする可能性について議論された。
- ・議論の結果、SGEPSS Web カレンダーの運用については、基本的には、これまで通り sgepss-admin(at=@)sgepss.org に掲載依頼があったものを掲載するが、全運営委員が積極的にWebカレンダーに情報提供する事とした。また、毎月 sgepssallに案内を流し会員に Webカレンダーの活用を求める事とした。
14. 学生発表賞関連(阿部)
- ・総会時に行うオーロラメダル表彰の準備状況と受賞者の出欠の予定が報告された。
 - ・前回運営委員会での議論内容を反映した、学生発表賞評価表の改訂版が提示された。
 - ・学生発表賞については、これまで学会の規定として定められていたが、他の学会賞と同様に内規で定める事が妥当であるとの報告がなされた。
15. 学会創立60周年記念事業(石井)
- ・学会創立60周年記念事業の現状報告がされた。
 - ・これから原稿を依頼する方のリストを現在作成中。
 - ・佐納会員が作成したも年表をベースにして、年表を整備中。
 - ・製本作業等について、加藤進名誉会員、西田篤弘会員から以下のような提案があった。
 - 製本については、プロに依頼すべきである。
 - 製本予算の確保のため、会員からの寄付・購入予約を考えるべきである。
 - 時間的な制約をもうけず、しっかりしたものを作るべきである。
16. その他
- ・4月28日に開催された連合将来構想委員会で議論された内容について報告された。
 - ・連合のセクション化について、複数選挙権などをSGEPSSから要望を出したが、受け入れられなかった。
 - ・5月28日に連合の評議委員会が開催される予定であり、定款の最終答申が行われる予定。また、準備委員会の立ち上げについても議論される予定。

(清水久芳)

第124回総会・講演会 (2008年秋学会) 関連情報

第124回SGEPSS総会および講演会は、2008年10月9日(木)から12日(日)にかけて、仙台市戦災復興記念館(仙台市青葉区大町二丁目12番1号)にて行われます。今回は、特別セッション2件、レギュラーセッション8件の構成です。

【セッション概要】

1. 特別セッション

S01: 「南極昭和基地大型大気レーダーによる超高層大気研究の新展開」

(A new phase of the upper atmospheric science based on the Antarctic Syowa MST/IS radar)

[佐藤 薫(東京大学大学院理学系研究科)、齊藤昭則(京都大学大学院理学研究科)、佐藤亨(京都大学大学院情報学研究科)、堤 雅基(国立極地研究所)、山内 恭(国立極地研究所)、富川喜弘(国立極地研究所)]

南極昭和基地は、様々な定常・研究観測が行なわれ、世界有数の総合大気観測拠点となっている。しかしながら、超高層大気と下層大気をつなぐ中層大気の観測は手薄であり、上下結合がとりわけ重要な極域大気研究は他の緯度帯に比べれば、遅れているといわざるを得ない。南極昭和基地大型大気レーダー計画(PANSY)では、この問題を克服し、南極大気研究のブレークスルーを図ることを目的として、南極で運用可能なシステム開発を行ってきた。そしてIPYでの総合試験を経て、南極観測第VIII期計画に応募する予定である。本セッションでは、オーロラや、夜光雲、オゾンホール、カタバ風などの南極に特徴的な大気現象や、大気上下結合を担う各種波動や物質循環などをキーワードにPANSYを軸としてどのような大気研究が展開できるか、その意義と可能性について議論を深めるため、幅広く講演を募集する。

S02: 「地震学と地球電磁気学の境界領域研究」

(Contact point between seismology and atmospheric/ionospheric science)

[歌田久司(東京大学地震研究所)、高橋幸弘(東北大学大学院理学研究科)、鴨川 仁(東京学芸大学教育学部)、西田 究(東京大学地震研究所)、深尾良夫(海洋研究開発機構)]

かつて「電離圏」「大気」「海洋」「固体地球」はごく限られた場合を除き、それぞれ独立な研究対象であった。ところが近年、地震学の分野では大気および海洋と固体地球とのカップリングの結果と見られる振動現象が発見され、そのメカニズムの解明がはかられつつある。一方、電離圏研究においてもTEC観測などにより、大地震による電離圏擾乱の発生という発見があった。地震学的アプローチの現状は大気までであるが、電離圏擾乱の存在を考慮すれば、いずれは電離圏をも含む多圏相互作用の統一的理解へとつながることが予想される。このスペシャルセッションは、地震学と電離圏科学の接点が見え始めるに至った今、SGEPSSと日本地震学会の協力により、新たな研究の展開への分岐点とすべく企画された。セッションはすべて招待講演により構成される。(共催: 日本地震学会)

2. レギュラーセッション

A03: 地球・惑星内部電磁気学(電気伝導度、地殻活動電磁気学)

(Solid Earth Electromagnetism)

[坂中伸也(秋田大学工学資源学部)、笠谷貴史(海洋研究開発機構)]

地球・惑星内部電磁気学に関する、実験、観測、理論、シミュレーションなどに基づいた研究の発表と議論を行う。地下比抵抗構造、磁気異常、自然電位異常、地震活動域・火山地域・海洋域での地殻活動・海流等による電磁場の励起に関連する諸現象、および室内実験、観測技術・装置、データ解析手法、解析的・数値的計算手法などの分野が具体的なこのセッションで扱う研究対象である。特に学生・若手研究者の意欲的な研究発表や観測提案を歓迎する。

A04: 地磁気・古地磁気・岩石磁気(主磁場ダイナモ、磁気異常、磁場計測、古地磁気・岩石磁気、月・隕石)

(Geomagnetism/Paleomagnetism/Rock Magnetism)

[齋藤武士(信州大学ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点)、金松敏也(海洋研究開発機構)]

地球・惑星磁場の変動・変遷、岩石・鉱物の岩石磁気・古地磁気とそれらの応用に関する議論の場を提供する。具体的には、1)地球・惑星磁場の起源・変動とそれらを明らかにする観測や理論、数値シミュレーション、2)岩石・地層・掘削試料の磁気的情報による地球表層のテクトニクス・環境

変動、3)地球内外の岩石・鉱物・隕石の磁気特性と測定技術、4)地球や月の磁気異常の観測やそれを生み出す地殻の磁化構造、など。

B05: 大気圏・電離圏

(Atmosphere/Ionosphere)

[堤 雅基 (国立極地研究所)、齊藤昭則 (京都大学大学院理学研究科)]

地表近くの大气から電離圏までの広い領域における力学・化学・輸送・電磁力学・放電・電離など諸現象の研究を対象とする。地表及び衛星からの観測、データ解析、理論、シミュレーションのみならず、観測技術の話題も歓迎する。大気圏と電離圏を合同のセッションとしているが、これにより境界領域の研究の活発化、例えば、地球大気の上下相互作用に関する理解が深まることを期待する。

B06: 磁気圏

(Magnetosphere)

[海老原祐輔 (名古屋大学高等研究院)、長谷川洋 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部)]

磁気圏の構造とダイナミクス、オーロラを含む電離圏や太陽風と磁気圏のカップリング、磁気嵐やサブストームなどの変動現象に関するさまざまな問題について、人工衛星や地上からの観測、理論、シミュレーション、モデリングにより得られた最新の結果を議論する。また、観測・シミュレーション・モデリング等の技術開発の報告も歓迎する。

B07: 太陽圏

(Heliosphere)

[中川朋子 (東北工業大学情報通信工学科)、徳丸宗利 (名古屋大学太陽地球環境研究所)]

太陽と太陽風によって形作られる太陽圏と、その中に生起するさまざまな現象についての研究発表を募集する。太陽風の加速過程の研究を始め、ダイナミックな太陽活動に対するコロナルマスイジェクション (CME) や惑星間空間衝撃波などの太陽圏の応答、惑星間空間の磁場や太陽風の構造、ヘリオポーズ・ターミネーションショック等の太陽圏全体構造、それを取り巻く星間物質 (LISM) の研究、宇宙線などの高エネルギー粒子の物理についての研究報告を幅広く募集する。惑星磁気圏へのエネルギーインプットとしての太陽風や、そこに生起する波動現象等も含め、幅広いトピックについての発表を歓迎する。

B08: 宇宙プラズマ理論・シミュレーション

(Space Plasma Theory/Simulation)

[杉山 徹 (海洋研究開発機構地球シミュレーターセンター)、中村 匡 (福井県立大学生物資源学科)]

本セッションでは磁気圏・惑星圏・太陽圏のみならず、広く天体現象に及ぶ天体宇宙プラズマ環境に生起する様々な物理現象に関する理論・シミュレーション・モデリング研究の議論の場を提供する。宇宙プラズマシミュレーションに関する新しい手法、計算機技術、プロジェクトなどに関するトピック、および研究背景となる観測データの紹介や新しい現象の発見などの講演を歓迎する。また、宇宙飛翔体環境や宇宙環境計測・利用に関連する理工学的な理論・シミュレーション研究についても扱う。

B09: 惑星圏 (Planets)

[土屋史紀 (東北大学大学院理学研究科)、今村 剛 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部)、笠羽康正 (東北大学大学院理学研究科)、関 華奈子 (名古屋大学太陽地球環境研究所)、高橋芳幸 (神戸大学大学院理学研究科)]

米ソが先鞭を付けた惑星直接探査は、太陽系の惑星や衛星の多様な姿を明らかにし、過去の常識を大きく変え、より普遍的な宇宙観へと我々を導いたひとつの大きな要因である。21世紀を迎え、日本も、月・小天体・金星・水星などを目標とした独自および国際協力探査によって、この進歩に中核的役割を担い得るポテンシャルを築きつつある。また、ユニークな地上・軌道上観測手段の開発、物理過程シミュレーションの進展もその能力向上を加速する。我々は、この活動の主力を担うコミュニティのひとつである。本セッションでは、「惑星圏」、すなわち大気・プラズマをまとう惑星環境を対象とした観測・データ解析や計算機などによる理論的研究の進展並びに成果、観測機器開発や将来計画提案など、幅広く講演を募集する。なお、本セッションは、進捗・計画中の太陽系探査計画に関する統合的セッションとしての性格を持つ。

B10: 宇宙天気・宇宙気候 ~ 観測、シミュレーション、その融合

(SpaceWeather/Climate)

[河野 英昭 (九州大学大学院理学研究院)、西谷望 (名古屋大学太陽地球環境研究所)]

太陽 - 地球システムの変動を予報するアルゴリズムの構築に向けて、シミュレーションと観測を行

う研究者が一同に会し発表・議論を行う。マクロシミュレーション科学は、太陽 - 地球系全体のグローバルな構造変化を自己無撞着に再現する手法を提供する。一方、各領域の観測は、グローバルな宇宙天気マップの構築を可能とするとともに、シミュレーション結果を検証する。両者が太陽 - 地球システムの広範な宇宙天気事象に対して一致するとき、予報が可能となる。また、太陽 - 地球システムの長期変動（宇宙気候）について、過去数百年の太陽や地磁気の観測データ、過去数千年から数万年に亘る宇宙線や氷床などのデータ解析の成果を議論し、今後の宇宙気候シミュレーションの方向を見出す。

【講演申し込み方法】

昨年と同様に、地球惑星科学連合大会と共通の個人IDを用いた WWWによる電子投稿のみになります。

[1] 投稿規定

* 筆頭著者一名につき、口頭発表一件、ポスター発表一件まで講演申込みを受付けます。

2件投稿される場合は、必ず発表形式を、一件は口頭、一件はポスターとしてください。

* 但し、「特別セッション」と「レギュラーセッション内での招待講演」については以下の通りに別扱いとなります。

・「特別セッション」：レギュラーセッションに加え、特別セッションでの発表が可能です。

・「レギュラーセッション内での招待講演」：同じセッションでなければ、別途に口頭発表をしていただけます。

* 非会員のみによる発表は受け付けません（但し、特別セッションと招待講演は別枠）。

* プログラム編成の都合上、実際の発表形式（口頭/ポスター）が希望通りにならないことがあります。予めご了承下さい。

[2] 投稿方法

予稿投稿の受付は、6月20日（金）から開始します。WWWを利用した投稿方法等についての詳しい情報は、本学会のホームページをご参照ください。

<http://www.sgepss.org>

【締め切り】

予稿原稿の申込み締め切りは、7月22日（火）午後5時と致します。FAX、電話、メール等による遅延の依頼は一切受けられません。

総会議題の申込は、9月1日（月）迄に会長宛に書面をお願い致します。

【問い合わせ先】

秋学会担当運営委員：野澤悟徳、臼井英之、石川尚人 (sgps08fall@rish.kyoto-u.ac.jp)

尚、秋学会に関する現地情報は、秋学会LOCのホームページをご覧ください。

<http://www.ppp.geophys.tohoku.ac.jp/sgepss08/>
(野澤悟徳、臼井英之、石川尚人)

SGEPSS60周年記念学会史 寄稿のお願い

当学会の前身である日本地球電気磁気学会が1947年に設立されてから、60周年を迎えた昨年より、記念事業として学会史の整備を行って参りました。

この原稿の募集は広く全会員から行います。学会活動を通じて会員の皆さんの印象に残るトピックスを中心としたご執筆・ご寄稿をぜひお願いします。取りまとめた学会史については基本的に学会ホームページから電子的にアクセスし閲覧できる形とするほか、冊子体については希望される会員に実費にて頒布することを検討しています。

投稿は電子メールにて以下の専用アドレスにお送りいただければ幸いです。あるいは、学会総務宛にご郵送いただいても結構です。

投稿専用アドレス sge60th@viola.nict.go.jp

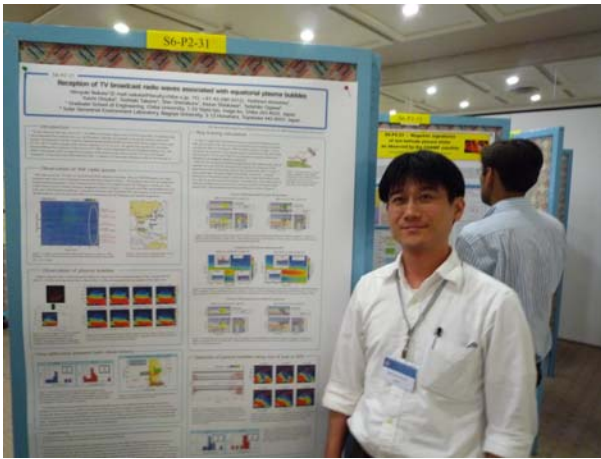
(石井 守)

国際学術交流事業補助金受領 の報告

千葉大学大学院工学研究科 中田裕之

この度、本学会による国際学術交流事業の援助を受け、2008年5月18日から24日にかけてギリシャ・クレタ島において開催された、12th International Symposium on Equatorial Aeronomy(以下、ISEA12)に参加致しました。学会の関係者の方々には、このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝申し上げますとともに、研究会での様子を皆様に報告させていただきたいと思えます。

今回参加したISEA12は、赤道域を中心としたAeronomyの国際研究集会であり、世界中から著名な研究者が集まるということを知っていましたので、是非とも参加したいと思っておりました。実際参加



してみると、それほど大きな研究会ではありませんが、パラレルセッションもなく、この分野に精通した参加者全員が議論に加わる、非常に充実した研究会でした。また、初日の講演はすべて、著名な研究者によるtutorial talkで、私のこれまでの知識を整理するには非常に有用なものでした。

私は、ポスター発表「Reception of broadcast TV radio waves associated with equatorial plasma bubbles」を行ってきました。我々の研究室では、千葉県館山市にてVHF帯電波観測を行っていますが、東南アジアより送信されたTV放送波が受信されることがしばしばあります。我々はその中にプラズマバブルに伴う受信を見つけました。名古屋大学太陽地球環境研究所が鹿児島県佐多にて行っている大気光観測データと比較したところ、プラズマバブルの発生と放送波の受信との対応は非常によく、プラズマバブルが観測される時には、ほぼすべての事象において、海外TV放送波が受信されることがわかりました。発表では、これらの解析結果に加え、最近行ったGPSによるプラズマバブルの検出に関する報告もあわせて行いました。今回の研究会では発表時間が伸びてしまうことが多く、ポスターセッションの時間が削られてしまうことが多かったのですが、多数の方に興味を持って聞いていただきました。特に、Huba博士と話をさせていただいたときは、逆に彼が行っているプラズマバブルのシミュレーションについても議論させていただきました。その内容は、私が今回の発表とは別に行っている研究にも関連するものであり、今後の研究を発展させるヒントとなるものでした。

ISEA12が行われたギリシャにはシェスタ（昼寝）の習慣があり、レストランなども昼に休む分、朝早くから夜遅くまで営業しています。ISEA12でも、セッションは朝の8時から夜の8時まで行われましたが、残念ながら我々にはシェスタの時間はなく、また途中の休憩時間も短くなってしまうことが

多く、非常にタフな研究会となりました。しかし、著名な研究者による多くの発表には大いに刺激を受けましたし、今後のISEAにもまた是非参加したいという思いを強くしました。

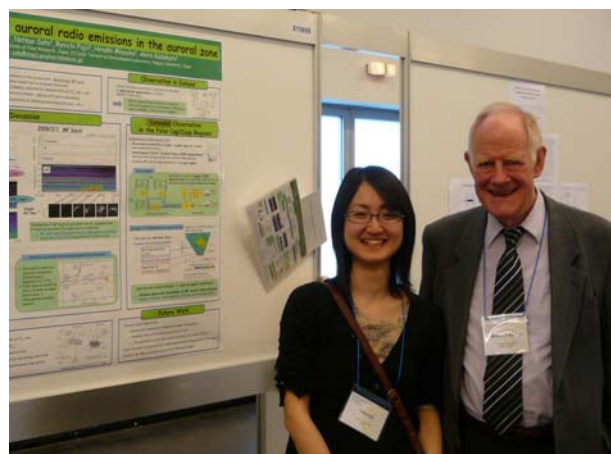
繰り返しになりますが、学会の関係者の方々には、このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝いたします。また、今後も多くの若手研究者が本事業を有効に活用していけるよう、ご配慮いただけますことを願っております。

国際学術交流事業補助金受領 の報告

東北大学大学院理学研究科 佐藤由佳

この度、2008年4月13日から18日にかけて、オーストリアのウィーンで開催されたEuropean Geosciences Union General Assembly 2008での研究発表に際し、本学会の国際学術研究事業によるご支援を頂きました。貴重な機会を与えて下さった本学会及び関係者の方々に厚く御礼申し上げます、その成果についてご報告させていただきます。

EGUへの参加は今回が初めてでしたが、欧州だけでなく米国や日本からも多くの参加者があり、地球科学全域のセッションが多数同時並行で進行する大規模な学会でした。私は、Solar-Terrestrial Sciences中のセッションである"Waves, wave-particle and wave-wave interactions"において、"Ground-based observation of MF auroral radio emissions in the auroral zone"というタイトルでポスター形式の発表をしました。発表のコアタイムが最終日の午後ということでやや不安を感じたため、関連したポスターセッションに顔を出しては進んで議論をするように心がけました。当日はやや参加人数は少ないようでしたが、予想よりも多くの方と議論すること



ができ、有意義な発表にすることができました。

本発表では、2005年よりアイスランドで実施しているMF帯オーロラ電波の偏波スペクトル観測の結果を基にして、地磁気・オーロラ光学観測との比較も加えて、観測された複数のイベントについて詳細に議論をしました。特に、2007年5月に観測された特異な周波数帯に出現するauroral roarに注目し、この現象を説明するためには、従来考えられているUpper hybrid波からのモード変換過程だけでなく、静電的電子サイクロトロン波を起源とする新たな発生メカニズムが必要であることを提唱しました。更に、今年8月から開始するスバルバルで新たな観測展開の紹介もしました。欧州のコミュニティーに本観測の意義を紹介する絶好のチャンスとなり、予想以上に興味深く聞いて頂くことができ、今後の研究において有益なご指摘を受けることができました。また、スバルバルで地上観測を行っているグループとも議論することができ、観測データの提供を受ける約束を得るなど、今後の研究展開への足掛かりをつかめたことが大きな収穫であったと感じています。

MF帯オーロラ電波の研究者は世界的に見ても非常に少ないですが、土星磁気圏におけるCassini衛星の波動観測に関する発表では、似た性質をもつプラズマ波動現象が報告されており、強く印象に残りました。こうしたプラズマ波動現象は宇宙空間において普遍的な現象であると改めて感じ、観測を充実させることができる地球において十分に理解することが非常に重要であることを再認識しました。本学会で得られた多くの収穫を無駄にすることなく、日々研究に邁進していきたいと思えます。最後に、今回の国際学術事業を通じて貴重な経験や大きな刺激を得られたことに対して改めて感謝申し上げますと共に、今後も本制度が継続され、多くの学生・若手研究者に積極的に活用されることを期待したいと思います。

アウトリーチ部会活動報告

アウトリーチ部会は5月の日本地球惑星科学連合の期間中の26日に会合を開催し、アウトリーチWeb及び秋学会でのアウトリーチイベントに関する打合せを行いました。

アウトリーチWeb

以前の会報でも報告しましたが、現在SGEPSSアウトリーチ活動のWEBを大幅に改善すべく準備を進めています。その主な目的と内容としては

- ・SGEPSSの研究分野紹介の一環として、一般、特に中高生が興味を持ちそうなキーワードについて、わかりやすい解説を作成し、知識普及・興味育成を図る。
- ・上記キーワードについて、それについて勉強できる大学、研究を行っている研究所等（SGEPSS会員の所属する）を紹介することで、SGEPSS分野に興味を持つ中高生・大学生が大学・大学院選びをするための情報発信を行う。
- ・各キーワードについて教えられる講師情報を紹介するという形で、SGEPSS講師派遣システムの利用促進を目指す。

現在、各キーワードの候補選定と、高校関係者へのアンケート準備を行なっています。また大学・研究者紹介については、会員の皆さんにWeb掲載前に確認のため連絡いたしますので、ご協力よろしくをお願いします。

秋学会のアウトリーチイベント

10月9-12日に仙台市戦災復興記念館で開催される秋学会の翌日10月13日に、仙台市天文台において、SGEPSSのアウトリーチイベント「体感！日本の惑星研究最前線」を開催致します。現在、コアメンバーと仙台市天文台との打合せが始まっており、イベントの実施に向けて、準備を進めつつあるところです。当イベントの企画や実行に協力したいという会員の参加をお待ちしております。希望される方は長妻 (tnagatsu(at)nict.go.jp) までご連絡下さい。よろしくお願い致します。

学会・国際会議におけるアウトリーチ部会活動

SGEPSSのアウトリーチ活動の取り組みに関して、日本地球惑星科学連合2008年大会の「地球惑星科学の教育とアウトリーチ」セッション、及び、AOGS2008のSpace Education Sessionにおいて、ポスター発表及び口頭発表を行いました。

(長妻 努、北 和之)

波動分科会活動報告

羽田 亨

波動分科会連絡会

合同大会期間中の5月30日に、会場の幕張メッセで開催された。昨年度の分科会詳細の報告、今年度の分科会予定（次回は、秋学会前後のいずれかに仙台市にて行くことを検討中）、集会以外の今後の分科会活動について（Webページの立ち上げ、Wikiページの開始など）等について議論を行った。

波動分科会幹事等の交代について

今年度より以下の体制となった（敬称略）。
幹事：羽田 亨（九大）
ワーキンググループ：橋本弘蔵（京大）、中村匡（福井県立大）、中川朋子（東北工大）、笠原禎也（金沢大）、三好由純（名大STE研）

関連研究集会のご案内

2008年惑星科学フロンティアセミナー

日時：2008年7月22日（火）～25日（金）
場所：北海道 ニセコいこいの村
主催：惑星科学フロンティアセミナー実行委員会
共催：日本惑星科学会
後援：地球電磁気・地球惑星圏学会

< 講師とテーマ >

講師 浜野洋三氏（JAMSTEC）
テーマ 地球中心核でなにが起こっているか

< 日程 >

7/22（火） 夕食（19:00～）までに集合
7/23（水） 午前・午後 講演（浜野氏）
7/24（木） 午前・午後 講演（浜野氏）
7/25（金） 朝 解散

< 会場 >

場所：ニセコいこいの村
<http://www.kinrou.or.jp/niseko-ikoi/index.htm>
<http://www.chuo-bus.co.jp/ikoinomura/>

< セミナーの理念 >

惑星科学の最先端の問題について合宿形式でじっくり時間をかけて議論するセミナーです。
セミナーにおいては、各個々人が自己満足の理解を追求することが奨励されています。それに加えて、現時点における理解の整理、問題点の洗い出し、解決方法の探索、などをおこなえればと考えて

います。

惑星科学という分野の学際性をかんがみて、初心者・専門外の方にも理解できるチュートリアル的な講義からはじめていただくようお願いしてあります。大学院生以上の、幅広い方面からの参加を歓迎します。

< 参加費 >

全日参加 30,000円
・参加費には宿泊費、食費が含まれています。
・参加費に交通費は含みません。
・部分参加については適宜割引します。

< 送迎バス（無料） >

7/22（火） 15:30発 北大 ニセコいこいの村
7/25（金） 9:30発 ニセコいこいの村 北大
利用を希望される方は、参加申込時に申し込んでください。

< ホームページ >

セミナーに関する情報は随時ホームページに掲載の予定です。
<https://www.wakusei.jp/news/meetings/2008/2008-07-22/index.html>

< 問い合わせ先 >

惑星科学フロンティアセミナー事務局
代表 はしもとじょーじ（神戸大）
お問い合わせはメールでお願いします
schoolstaff@wakusei.jp

「日本流体力学会年会2008」のご案内

日時：2008年9月4日（木）～7日（日）
会場：神戸大学六甲台キャンパス
主催：（社）日本流体力学会

関連のオーガナイズドセッションとしては、

- ・ 原理を横断的に議論するセッション
「対流」、「波動」、「回転」、「成層」など
 - ・ 実際の現象を議論するセッション
「大気」、「宇宙・惑星」など
- の2系統が設定されています。

地球電磁気・地球惑星圏学会は、今年から協賛学会となり参加費が割引となります。皆様、ふるって御参加下さい。

詳しくは、
<http://www.nagare.or.jp/nenkai2008/>
をご覧ください。

国際シンポジウム：IGYから50年

- 最新情報技術と地球・太陽の科学 -

International Symposium: Fifty Years after IGY

- Modern Information Technologies and Earth Sciences -

地球科学に画期的進展をもたらした国際地球観測年 (IGY, 1957 -1958) から50周年を記念すると共に、近年急激に発展した情報通信技術・計算機技術と地球科学の融合によるさらなる発展および成果の社会還元を検討を目的として以下の様に国際シンポジウムを開催します。

なお本シンポジウムの開催について、以下の助成を受けております：地球電磁気・地球惑星圏学会、日本学術振興会、情報通信研究機構、名古屋大学太陽地球環境研究所、国立極地研究所、総合研究大学院大学、井上科学振興財団、九州大学宙空環境研究センター、京都大学防災研究所、京都大学生存圏研究所、京都大学理学研究科

開催期間：平成20年11月10日 - 13日

開催場所：産業技術総合研究所（つくば市）

主催：

日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会
日本学術会議IPY・eGY・IYPE・STPP(IHY)・WDC・CODATA・SCOSTEP各小委員会

開催委員長：河野 長(日本学術会議第三部会幹事)

委員：佐藤夏雄 (IPY)、家森俊彦 (eGY)、佃栄吉 (IYPE)、湯元清文 (STPP(IHY))、渡邊 堯 (WDC)、岩田修一 (CODATA)、津田敏隆 (SCOSTEP) 各小委員会委員長

URL： <http://wdc2.kugi.kyoto-u.ac.jp/igy50/>

アブストラクト締め切り：2008年7月10日

事前参加申し込み締め切り：2008年10月31日

参加費用：

一般：20000円（事前申し込み）、30000円（当日申し込み）

学生・シニア・同伴者：10000円（事前・当日とも）

展示企業：30000円（事前のみ）

連絡先：亘 慎一（LOC総務；情報通信研究機構）

電話：042-327-6958

電子メール：watari(at)nict.go.jp

関連公募のご案内

東京工業大学火山流体研究センター 教員公募

東京工業大学火山流体研究センターでは、下記の要領で教員を募集いたします。

関係者への周知方、よろしくごお願い申し上げます。

1．公募人員：教授または准教授 1名

2．公募分野：火山学

ただし、以下の4つの条件をすべて満たす必要があります。

(1) フィールドワークに基づいて、火山学の研究を、世界最先端レベルで推進することができること。

(2) 全国の火山噴火予知関連大学のネットワーク拠点（火山・地殻流体研究拠点）として、火山噴火予知研究を推進することができること。

(3) 化学専攻あるいは地球惑星科学専攻に所属する教員と協力して、学生および大学院生の教育・研究指導を積極的に実施できること。

(4) 教授の場合には、草津白根火山観測所の運営を行えること。

3．応募資格：博士の学位を有する方

4．着任時期：決定後できるだけ早い時期

5．提出書類：

(1) 履歴書（高校卒業からの学歴および職歴）

(2) これまでの研究業績の概要（2000字程度）

(3) 業績・実績リスト（査読論文とそれ以外の総説、著書、学生・院生の指導実績、学会活動、外部資金獲得実績、関連諸団体の委員、その他に分類すること）

(4) 主要論文別刷（コピー可）5編以内

(5) 今後の研究計画（2000字程度）

(6) 今後の教育計画（2000字程度）

(7) 火山流体研究センターおよび草津白根火山観測所の運営に関する抱負（2000字以内）（ただし教授に応募する場合のみ必要）

(8) 申請者に関して意見を伺える者4名（国内2名海外2名）の氏名、住所、電子メールアドレス

6．応募の締切：平成20年7月18日（金）必着

7．応募書類提出先：

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 H-75

東京工業大学 理学系事務係長宛

封筒の表に「火山流体研究センター 教授応募（あるいは准教授応募）書類在中」と朱書きし、郵便書留で送付してください。

なお、提出された書類の返却は致しません。

8. 問い合わせ先 :

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 H84
東京工業大学 火山流体研究センター 小川康雄
電話03-5734-2639
電子メールloga(at)ksvo.titech.ac.jp

なお、火山流体研究センターは、国の火山噴火予知研究計画を推進するために設置された施設で、平成21年度からは全国の地震・火山噴火予知関連大学のネットワークにおいて“火山・地殻流体研究拠点”となることが決定しています。

現在、火山流体研究センターには、渋谷一彦教授(センター長併任、化学専攻)、小川康雄教授(草津白根火山観測所長、火山物理学)、大場武准教授(火山化学)、野上健治准教授(火山化学)が在職しております。

詳しくはWEBをご覧ください。

<http://www.ksvo.titech.ac.jp/index.html>

国立極地研究所宙空圏研究グループ 教授公募

1. 職名・公募人員

教授 1名

2. 所属

研究教育系宙空圏研究グループ

3. 研究分野

極域超高層物理学、または中層大気科学

4. 研究・職務内容

本公募では、現在、宙空圏研究グループが進めている電波や光学などのリモートセンシング観測による極域宙空圏～中層大気間の相互作用やエネルギー輸送、大気運動の上下結合、大気組成などの研究を、国内外の研究者とともに積極的に推進し、この分野の研究を大きく進展させるとともに、将来的にはさらに高性能の観測システムに発展させる能力と見識を備えた方を求めます。

また、国立極地研究所が南極地域観測事業実施の中核機関であること、大学共同利用機関及び総合研究大学院大学基盤機関であることをよく理解し、極域観測の推進、国内外の共同研究への対応や大学院教育に意欲をもって当る方を求めます。

5. 応募資格

博士の学位を有すること。

6. 提出書類

(1) 応募書(カバーレターに相当するもので
応募する職名 氏名 学位 所属・職
所属先住所、電話番号 現住所、電話番号、電

子メール、を記載する。)

(2) 履歴書(大学卒業以降の学歴、職歴、賞罰、資格は必ず記載し、顔写真を添付する。書式は自由。)

(3) 研究業績目録(学位論文、原著論文、その他に分類して目録を作成する。、については査読を受けたものと受けていないものを区別する。)

(4) 主要論文5編以下の別刷りを各1部

(5) 代表者としての科学研究費等外部資金獲得の実績表(名称、年度、金額)

(6) これまでの研究活動の概要(A4版用紙2枚以内とする)

(7) 今後の研究、教育及び極域観測の発展への抱負(A4版用紙2枚以内とする)

(8) 応募者について意見を聞ける方2名程度の氏名と連絡先

(9) 推薦書(推薦書がある場合)

7. 応募締切

平成20年8月29日(金)17時必着

8. 選考・着任時期

応募締切後、1～2ヶ月以内に選考を行う予定であり、その過程において面接を行うことがあります。着任時期は平成20年12月以降の早い時期を予定しています。

9. 応募書類提出先

〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10

情報・システム研究機構 国立極地研究所 管理部総務課人事係

なお、封筒の表に「宙空圏研究グループ教授応募書類」と朱書きし、郵送の場合は書留にしてください。

10. 問い合わせ先

(1) 研究・職務内容に関すること

国立極地研究所 研究教育系・教授 山岸久雄
電話：03-3962-4646

E-mail:yamagisi(at)uap.nipr.ac.jp

(2) 事務手続きに関すること

国立極地研究所 管理部総務課人事係
電話：03-3962-1367、fax：03-3962-2529

11. 個人情報保護

本募集に関連して提出された個人情報については、選考の目的に限って利用し、選考終了後は、教員として採用された方の情報を除き全ての個人情報は責任を持って破棄します。

12. 参考

国立極地研究所研究教育系宙空圏研究グループには、現在以下の教員が配置されています。

教授：佐藤夏雄（磁気圏物理学）、山岸久雄（超高層物理学）

准教授：宮岡 宏（プラズマ物理学）、門倉昭（磁気圏物理学）、堤 雅基（大気物理学）

講師：小川泰信（電離圏物理学）

助教：行松 彰（磁気圏物理学）、岡田雅樹（プラズマ物理学）、富川喜弘（中層大気科学）
また、関連研究分野である気水圏研究グループの大気分野には、現在以下の教員が配置されていません。

教授：山内 恭（大気物理学、極域気候学）、和田 誠（大気物理学）

准教授：塩原匡貴（大気物理学）

助教：平沢尚彦（気象学）、橋田 元（大気科学）、森本真司（大気物理学）

なお、国立極地研究所のホームページは、“<http://www.nipr.ac.jp>”です。
また、国立極地研究所は平成21年5月頃に東京都立川市へ移転する予定です。

国立極地研究所宙空圏研究グループ 准教授公募

1. 職名・公募人員

准教授 1名

2. 所属

研究教育系宙空圏研究グループ

3. 研究分野

磁気圏物理学、極域超高層物理学、または中層大気科学

4. 研究・職務内容

本公募では、極域における磁気圏、電離圏、超高層大気、中層大気の観測、解析ならびに理論的な研究により、宙空圏分野の先端的な研究を、国内外の共同研究を通じて積極的に担う方を求めます。優れた研究能力・研究実績とともに、南極・北極地域における現地での研究観測を企画立案し、中心となって遂行する能力も求められます。

また、国立極地研究所は南極地域観測事業実施の中核機関であること、また大学共同利用機関及び総合研究大学院大学基盤機関であることをよく理解し、極域観測の推進、国内外の共同研究への対応や大学院教育に意欲をもって当ることが求められます。

5. 応募資格

博士の学位を有すること。

6. 提出書類

(1) 応募書（カバーレターに相当するもので

応募する職名 氏名 学位 所属・職
所属先住所、電話番号 現住所、電話番号、電子メール、を記載する。）

(2) 履歴書（大学卒業以降の学歴、職歴、賞罰、資格は必ず記載し、顔写真を添付する。書式は自由。）

(3) 研究業績目録（学位論文、原著論文、その他に分類して目録を作成する。 については査読を受けたものと受けていないものを区別する。）

(4) 主要論文5編以下の別刷りを各1部

(5) 代表者としての科学研究費等外部資金獲得の実績表（名称、年度、金額）

(6) これまでの研究活動の概要（A4版用紙2枚以内とする）

(7) 今後の研究、教育及び極域観測の発展への抱負（A4版用紙2枚以内とする）

(8) 応募者について意見を聞ける方2名程度の氏名と連絡先

(9) 推薦書（推薦書がある場合）

7. 応募締切

平成20年8月29日（金）17時必着

8. 選考・着任時期

応募締切後、1~2ヶ月以内に選考を行う予定であり、その過程において面接を行うことがあります。着任時期は平成20年12月以降の早い時期を予定しています。

9. 応募書類提出先

〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10

情報・システム研究機構 国立極地研究所 管理部総務課人事係

なお、封筒の表に「宙空圏研究グループ准教授応募書類」と朱書きし、郵送の場合は書留にしてください。

10. 問い合わせ先

(1) 研究・職務内容に関すること

国立極地研究所 研究教育系・教授 山岸久雄
電話：03-3962-4646

E-mail : yamagisi(at)uap.nipr.ac.jp

(2) 事務手続きに関すること

国立極地研究所 管理部総務課人事係

電話：03-3962-1367、fax：03-3962-2529

11. 個人情報保護

本募集に関連して提出された個人情報については、選考の目的に限って利用し、選考終了後は、教員として採用された方の情報を除き全ての個人情報は責任を持って破棄します。

12. 参考

国立極地研究所研究教育系宙空圏研究グループには、現在以下の教員が配置されています。

教授：佐藤夏雄（磁気圏物理学）、山岸久雄（超高層物理学）

准教授：宮岡 宏（プラズマ物理学）、門倉昭（磁気圏物理学）、堤 雅基（大気物理学）

講師：小川泰信（電離圏物理学）

助教：行松 彰（磁気圏物理学）、岡田雅樹（プラズマ物理学）、富川喜弘（中層大気科学）

なお、国立極地研究所のホームページは、“<http://www.nipr.ac.jp>”です。

また、国立極地研究所は平成21年5月頃に東京都立川市へ移転する予定です。

学術賞・研究助成のご案内

井上学術賞

（会長推薦：8月9日までに会長まで必着）

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を挙げた50歳未満の研究者に対し、井上学術賞（賞状及び金メダル、副賞 200万円）を贈呈します。

毎年4～9月に関係28学会及び本財団の役員・評議員等から候補者の推薦を受けて選考を行い、12月に5件以内を決定し、翌年2月に贈呈式を行います。

井上研究奨励賞

理学、医学、薬学、工学、農学等の分野で過去3年の間に博士の学位を取得した35歳未満（医学・歯学・獣医学の学位については37歳未満）の研究者で、優れた博士論文を提出した若手研究者に対し井上研究奨励賞（賞状・メダル及び井上研究奨励金50万円）を贈呈します。

毎年4～9月に全国の関係大学長に候補者の推薦を依頼して選考を行い、12月に30件を決定し、翌年2月に贈呈式を行います。

財団法人井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15
南平台今井ビル601

tel 03-3477-2738 fax 03-3477-2747

<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

東レ科学技術研究助成

（学会推薦：9月8日までに総務まで必着）

国内の研究機関で理学・工学・農学・薬学・医学（除・臨床医学）関係の基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的・萌芽的研究を活発に行っている若手研究者に、毎年研究助成金を贈呈しています。研究助成金総額1億3千万円、10件程度、研究の内容によっては1件3千万円程度まで助成します。

主要52学協会および当会の推薦委員に推薦を依頼し、選考委員会で書類による一次選考および面接による二次選考をし、理事会の審議を経て評議員会で決定します。

東レ科学技術賞

（学会推薦：9月8日までに総務まで必着）

理学・工学・農学・薬学・医学（除・臨床医学）関係で、学術上の業績が顕著なもの、学術上重要な発見をしたもの、重要な発明をしてその効果が大きいもの、技術上重要な問題を解決して技術の進歩に大きく貢献したものに対し、科学技術賞（金メダル、賞金5百万円）を毎年2件前後贈呈しています。主要52学協会および当会の推薦委員に推薦を依頼し、選考委員会で選考し、理事会の審議を経て評議員会で決定します。

財団法人東レ科学振興会

〒279-8555 千葉県浦安市美浜一丁目8番1号
（東レビル）

TEL(047)350-6103・6104 FAX(047)350-6082

E-mail [torayzaidan\(at\)tgnts.toray.co.jp](mailto:torayzaidan(at)tgnts.toray.co.jp)

<http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

朝日賞

（学会推薦不要だが、会長推薦受ける場合には8月9日まで必着）

学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、我が国の文化、社会の発展、向上に多大な貢献をした個人または団体に贈られる。

照会先：朝日新聞社事業本部メセナ・スポーツ部
「朝日賞」係

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

電話03-5540-7453 ファックス 03-3541-8999

学会賞・国際交流事業関係 年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦/問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月28日
田中館賞	会長	8月31日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月31日
学生発表賞	推薦なし/問合せは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会総務	平成20年度は5月18日、7月18日 10月3日、2月6日
国際学術交流外国人招聘	運営委員会総務	若手派遣と同じ

SGEPSS Calendar

- 08-07-13~20 COSPAR 2008 (Montreal, Canada)
- 08-07-22~25 惑星科学フロンティアセミナー(ニセコいこいの村、北海道ニセコ町)
- 08-07-29~08-1 AGU 2008 Western Pacific Geophysics Meeting (Cairns, Australia)
- 08-08-3~8 IAMAS/The International Radiation Symposium (Foz du Iguazu, Brazil)
- 08-08-04~5 第32回 極域宙空圏シンポジウム(国立極地研究所、東京都)
- 08-08-9~16 XXIXth URSI General Assembly (Chicago, USA)
- 08-09-04~07 日本流体力学会年会2008(神戸大学、神戸市)
- 08-09-09~11 International Congress on Plasma Physics(ICPP) 2008(福岡国際会議センタ、福岡市)
- 08-09-11~12 第26回レーザセンシング シンポジウム(ホテル パーレンス小野屋、福岡県朝倉市)
- 08-10-09~12 第124回 SGEPSS講演会(仙台市戦災復興記念館、仙台市)

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 歌田久司 〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
 東京大学地震研究所 海半球研究センター
 TEL: 03-5841-5722 FAX: 03-3812-9417 e-mail: utada(at)eri.u-tokyo.ac.jp

総務 石井 守 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1
 独立行政法人 情報通信研究機構 電磁波計測研究センター
 TEL: 042-327-7540 FAX: 042-327-6163 e-mail: mishii(at)nict.go.jp

広報 北 和之(会報担当) 〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1 茨城大学理学部
 TEL: 029-228-8400 FAX: 029-228-8400 e-mail: kita(at)mx.ibaraki.ac.jp
 河野英昭(会報担当) 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1
 九州大学理学部地球惑星科学科
 TEL: 092-642-2671 FAX: 092-642-2684 e-mail: hkawano(at)geo.kyushu-u.ac.jp

運営委員会(事務局) 〒650-0033 神戸市中央区江戸町85-1ベイ・ウイング神戸ビル10階
 (株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会 事務局
 TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-MAIL: sgepss(at)pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

エコー計測器(株)

〒182-0025
東京都調布市多摩川2-3-2
tel. 0424-81-1311
fax. 0424-81-1314
URL <http://www.clock.co.jp/>

NEC東芝スペースシステム(株)

〒224-8555
横浜市都筑区池辺町4035
tel. 045-938-8230
ext: 8-399-2590
fax. 045-938-8324
ext: 8-399-2559
URL <http://www.ntspace.jp/>

クローバテック(株)

〒180-0006
東京都武蔵野市中町3-1-5
tel. 0422-37-2477
fax. 0422-37-2478
URL <http://www.clovertech.co.jp/>

(有)テラ学術図書出版

〒158-0083
東京都世田谷区奥沢 5-27-19
三青自由ヶ丘ハイム2003
tel. 03-3718-7500
fax. 03-3718-4406
URL <http://www.terrapub.co.jp/>

(有)テラテクニカ

〒206-0812
東京都稲城市矢野口 2
tel. 042-379-2131
fax. 042-370-7100
URL <http://www.tierra.co.jp/>

日鉄鉱コンサルタント(株)

〒108-0014
東京都港区芝4丁目2-3いすゞ芝ビル5F
tel. 03-6414-2766
fax. 03-6414-2772
URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

富士通(株)宇宙システム部

〒261-8588
千葉市美浜区中瀬 1-9-3
富士通システムラボラトリ
tel. 043-299-3247
fax. 043-299-3012
URL <http://jp.fujitsu.com/>

丸文(株)営業本部航空宇宙部 計測機器課

〒103-8577
東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1
tel. 03-3639-9821
fax. 03-3661-7473
URL <http://www.marubun.co.jp/>

明星電気(株)宇宙機器技術部

〒372-8585
群馬県伊勢崎市長沼町2223
tel. 0270-32-9777
fax. 0270-32-0988
URL <http://www.meisei.co.jp/>